Press Release

新国立劇場 演劇研修所公演

朗読劇『少年口伝隊一九四五』

出演：新国立劇場演劇研修所第 12 期生ほか

2018 年 8 月 1 日(水)～4 日(土)

新国立劇場　小劇場

広島がヒロシマになった日――
ヒロシマの人々の思いを、井上ひさし氏の思いを、口伝する。

2016 年に新国立劇場演劇研修所に入所した第 12 期生が、舞台実習としていよいよ小劇場に登場いたします。作品は朗読劇『少年口伝隊一九四五』。2008 年 2 月に井上ひさし氏が演劇研修所の研修生のために書き下ろし、2017 年に高等学校国語科教科書「新編国語総合」に教材として採録されました。

演劇研修所では 3 年ぶりの上演です。ヒロシマの人々と井上ひさし氏の想いを口伝し、作品を伝承していくという思いを込めて、12 期生が気持ちを新たにこの作品に挑みます。

2015 年 8 月　第 9 期生朗読劇『少年口伝隊一九四五』より

■写真・資料のご請求、ご取材のお問い合わせ

新国立劇場　広報室　広報第一係

Tel: 03-5352-5781 / Fax: 03-5352-5784

■新国立劇場 演劇研修所ホームページ

http://www.nntt.jac.go.jp/play/training/

■新国立劇場 演劇研修所 Facebook　最新情報はこちら！

https://www.facebook.com/nnt.dramastudio.tokyo/

公 演 概 要

作　　：井上ひさし
演　　出：栗山民也

音楽監督：後藤浩明
模型製作：尼川ゆら
照　　明：服部 基
音　　響：秦 大介
衣　　裳：中村洋一
映　　像：井形伸一

方言指導：大原穣子
ヘアメイク：前田節子
演　出　補：田中麻衣子
舞台監督：米倉幸雄

出　　演：新国立劇場演劇研修所　第 12 期生
伊澤日菜　川飛舞花　下地 萌　永井茉梨奈　中坂弥樹　林 真菜美
石原嵩志　河合隆汰　福永 遼　福本鴻介
髙倉直人（10 期修了）　椎名一浩（11 期修了）
ギター演奏：宮下祥子

演劇研修所長：宮田慶子
制作・主催：新国立劇場

会　　場：新国立劇場　小劇場

日　　程：2018 年 8 月　1 日（水）　19:00
2 日（木）　19:00
3 日（金）　14:00
4 日（土）　14:00　（託児サービス利用可）
※開場は開演の 30 分前です。

料　　金：A　席　2,160 円
B　席　1,620 円
学生券　上記チケット料金の半額

※アトレ会員・各種割引はありません。
※車椅子ご利用のお客様はボックスオフィスまでお問い合わせください。
※就学前のお子様のご同伴、ご入場はご遠慮ください。
※学生券はボックスオフィスの窓口・電話にて受け付けます。
お引き取りの際には、学生証または年齢を確認できるものが必要です。

チケット：新国立劇場ボックスオフィス／Web ボックスオフィス
03 - 5352 - 9999／http://pia.jp/nntt/

チケットぴあ【P コード：486-822】
0570 - 02 - 9999／http://pia.jp/t

前　　売：アトレ会員先行発売期間　2018 年 5 月 31 日（木）～6 月 6 日（水）
一般発売日　2018 年 6 月 8 日（金）

作品について

ヒロシマへの井上ひさしさんの強い思いは、いまとなっては誠に無念なことですが井上さんの肉声を通して聞くことができません。が、ヒロシマを再三訪れ、被爆者のみなさまの残された言葉を丁寧に書き写し、心に刻んだ井上さんが心血をそそぎ、文字通り命を削って著した戯曲を読むことで、また舞台に出会うことで、私たちはその思いを共有することができます。

朗読劇『少年口伝隊一九四五』は、2008 年 2 月、日本ペンクラブの国際フォーラムのオープニング作品として企画され、井上さん自らが演劇研修所研修生の出演を望まれ、書き下ろした戯曲を上演しました。その後、井上さんは初演版に手を加え、完全版として生まれ変わった『少年口伝隊一九四五』は、08 年 9 月より、研修生たちの間でバトンが渡るような形で上演されてきました。

12 期生はこの度、現地広島に実際に足を運び、原爆ドームなどの被爆建造物を見学、また平和記念資料館にて直接被爆者のお話を伺う機会を得ました。この広島での研修の成果をいかして、井上ひさしさんの思いを口伝し、また研修生にとっては作品を伝承するという意味も込めて、本作品に挑みます。井上さんの最期の言葉を借りれば、「作品を読んでもらうこと、劇場に足を運んでもらうことが僕の幸せ」。そして最後の作品となった『組曲虐殺』の「あとにつづくものを信じて走れ」という井上さんのメッセージをしっかりと受け止め、夏の季節とともに、今年も私たちに必要な朗読劇を、これからも語り継いでいきます。

より多くの方々にヒロシマと出会っていただきたいと思います。

『少年口伝隊一九四五』上演記録

2008 年（2期生）	2 月 22 日・24 日	全労済ホール／スペースゼロ（東京・新宿） ＜初演＞
	3 月 7 日・8 日	川崎市アートセンター アルテリオ小劇場（神奈川・川崎市）
	9 月 16 日	新国立劇場小劇場（東京・初台） ＜完全版初演＞
	21 日	水戸芸術館 ACM 劇場（茨城・水戸市）
	23 日	シベールアリーナ柿落とし公演（山形・山形市）
2009 年（3期生）	9 月 18 日～20 日	新国立劇場小劇場（東京・初台）
2010 年（4期生）	7 月 30 日・31 日	新国立劇場小劇場（東京・初台）
	8 月 4 日	板橋演劇鑑賞会（東京・板橋）
2011 年（5期生）	8 月 16 日・17 日	新国立劇場小劇場（東京・初台）
2013 年（7期生）	8 月 1 日～3 日	新国立劇場小劇場（東京・初台）
2014 年（8期生）	9 月 23 日・24 日	新国立劇場小劇場（東京・初台）
2015 年（9期生）	8 月 2 日	沖縄県立博物館・美術館 博物館 講堂（沖縄・那覇市）
	8 月 14～16 日	新国立劇場小劇場（東京・初台）
2018 年（12 期生）	8 月 1～4 日	新国立劇場小劇場（東京・初台）

ものがたり

昭和 20 年 8 月 6 日、一発の原子爆弾が広島の上空で炸裂した。
一瞬にして広島は壊滅。このときから、漢字の広島はカタカナのヒロシマになった。
かろうじて生き延びた英彦、正夫、勝利の三人の少年は、やはり運よく助かった花江の口利きで中國新聞社に口伝隊として雇われる。新聞社も原爆で何もかも失ったため、ニュースは口頭で伝えるほかなかったからだ。
三人の少年は、人々にニュースを伝えながら、大人たちの身勝手な論理とこの世界の矛盾に気づいていく。やがて敗戦……。
そこへ戦後最大級の台風がヒロシマを襲う。

スタッフ

作：井上 ひさし（いのうえ・ひさし）

1934 年、山形県東置賜郡川西町（旧小松町）生まれ。上智大学外国語学部フランス語科卒業。在学中から台本を手がけ、放送作家として執筆活動をスタートする。64 年には、NHKの連続人形劇『ひょっこりひょうたん島』（共作）の台本を執筆。その後、戯曲、小説、エッセイの分野にも活動の場を広げ、直木賞をはじめ、讀賣文学賞、吉川英治文学賞、谷崎潤一郎賞、菊池寛賞、など数多くの賞を受賞。主な戯曲に『日本人のへそ』『頭痛肩こり樋口一葉』『父と暮せば』『人間合格』など。ベストセラーには小説『ブンとフン』『青葉繁れる』『吉里吉里人』『四千万歩の男』『東京セブンローズ』、また『私家版日本語文法』『コメの話』『本の運命』『井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法』などもある。
こまつ座旗揚げは 84 年、多くの戯曲を書き下ろして旧作とあわせて上演。新国立劇場にも『紙屋町さくらホテル』他を書下ろす。戯曲『化粧』『藪原検校』『父と暮せば』などは海外公演でも高い評価を得ている。01 年には「知的で民衆的な現代史を総合する創作活動」で朝日賞を受賞。04 年、文化功労者に選ばれる。09 年日本放送協会放送文化賞。恩賜賞日本芸術院賞を受賞。09 年『ムサシ』『組曲虐殺』を書き下ろして上演。 10 年「長年にわたり演劇界に多大な貢献をしてきた」ことにより読売演劇大賞 芸術栄誉賞を受賞。同年故郷山形県より山形県県民栄誉賞受賞。2010 年 4 月 9 日永眠（75 歳）。

演出：栗山民也（くりやま・たみや）

早稲田大学文学部演劇科卒業。主な演出作品に『GHETTO／ゲットー』『きらめく星座』『海をゆく者』『組曲虐殺』『スリル・ミー』『ピアフ』『藪原検校』『アルカディア』『ディスグレイスド　恥辱』『ヘッダ・ガブラー』などがある。紀伊國屋演劇賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、毎日芸術賞千田是也賞、朝日舞台芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞。新国立劇場では『今宵限りは…』『ブッダ』『キーン』『夜への長い旅路』『欲望という名の電車』『ピカドン・キジムナー』『夢の裂け目』『ワーニャおじさん』『桜の園』『浮標』『夢の泪』『涙の谷、銀河の丘』『世阿彌』『胎内』『喪服の似合うエレクトラ』『箱根強羅ホテル』『母・肝っ玉とその子供たち』『夢の痂』『CLEANSKINS／きれいな肌』『氷屋来たる』『まほろば』『雨』『マニラ瑞穂記』『あわれ彼女は娼婦』、オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』を演出。著書に『演出家の仕事』（岩波書店刊）。新国立劇場演劇芸術監督を 7 シーズン務め、また 2005 年 4 月開所時より 16 年 3 月まで新国立劇場演劇研修所所長を務めた。13 年春、紫綬褒章受章。

ギター：宮下 祥子（みやした・さちこ）

札幌出身。セゴビア国際ギターコンクールで日本人として 初めてとなる第 2 位で入賞。海外公演も多く 12 ヵ国 32 都 市に及ぶ。最新 CD「旅立ち」は「レコード芸術」特選盤となる。札幌大谷大学非常勤講師。北海道大学卒業。『少年口伝 隊一九四五』へは井上ひさし氏指名で初演より参加。

出 演 者

演劇研修所第 12 期生

伊澤日菜 （いざわ・ひな）	川飛舞花 （かわとび・まいか）	下地萌音 （しもじ・もと）	永井茉梨奈 （ながい・まりな）
1992 年生・愛知県出身	1998 年生・兵庫県出身	1997 年生・沖縄県出身	1993 年生・富山県出身

中坂弥樹 （なかさか・みき）	林 真菜美 （はやし・まなみ）
1995 年生・神奈川県出身	1991 年生・岡山県出身

石原嵩志 （いしはら・たかし）	河合隆汰 （かわい・りゅうた）	福永 遼 （ふくなが・りょう）	福本鴻介 （ふくもと・こうすけ）
1993 年生・栃木県出身	1993 年生・長野県出身	1996 年生・長崎県出身	1993 年生・東京都出身

演劇研修所修了生

髙倉直人 （たかくら・なおと）	椎名一浩 （しいな・かずひろ）
第 10 期修了	第 11 期修了

新国立劇場 演劇研修所について

新国立劇場演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強い身体を備えた次世代の演劇を担う舞台俳優の育成を目指して、2005 年に設立されました。
研修期間は 3 年間で、原則として週 5 日間、午前 10 時～午後 6 時のレッスンを、1 年を通して行っています。1・2 年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるシーンスタディを行い、3 年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行います。
修了生は、新国立劇場公演のみならずさまざまなプロデュース公演に出演するなど、活躍の場を広げています。

【今後の主な修了生出演作品】

新国立劇場『ヘンリー五世』（作：ウィリアム・シェイクスピア、翻訳：小田島雄志、演出：鵜山 仁、2018 年 5 月）
小比類巻諒介（第 11 期生）、玲央バルトナー（第 11 期生）

Triglav『The Collection』（脚本：ハロルド・ピンター、翻訳：中西良介、演出：新井ひかる、2018 年 6 月）
中西良介（第 10 期生）

ポール・クローデル生誕 150 周年記念『繻子の靴』四日間のスペイン芝居
（作：ポール・クローデル、翻訳・構成・演出：渡邊守章、2018 年 6 月）
岩澤侑生子（第 7 期生）

新宿梁山泊　第 63 回公演『ユニコン物語　～台東区編～』（作：唐十郎、演出：金守珍、2018 年 6 月）
小川碧水（第 8 期生）

ホリプロ『アンナ・クリステイ』（作：ユージン・オニール、演出：栗山民也、2018 年 7 月）
吉田健悟（第 7 期生）

Noism1×SPAC 劇的舞踊 vol.4『ROMEO＆JULIETS』
（原作：ウィリアム・シェイクスピア、演出振付：金森穣、2018 年 7～9 月）
野口俊丞（第 1 期生）

NODA・MAP 第２２回公演『贋作　桜の森の満開の下』
（作・演出：野田秀樹、2018 年 9～11 月）
藤井咲有里（第 2 期生）

ほか、テレビ・映画・CM など

本公演に出演する第 12 期生は、2016 年 4 月に入所。3 年次である今年度は来年 3 月の修了を控え、朗読劇、試演会、修了公演に臨みます。

【第１２期生の今後の予定】

2018 年 10 月　試演会「トミイのスカートからミシンがとびだした話」（作：三好十郎　演出：田中麻衣子）

2017 年 8 月第 11 期生朗読劇『ひめゆり』

2018 年 3 月 第 12 期生シーンスタディ『三文オペラ』発表授業